

ねじりはちまき

3月弥生(やよい)、啓蟄の月になりました。

3月3日は節句です。5日啓蟄で6日は旧では初馬です。

21日春分の日、彼岸の中日で先祖様の供養にお墓参りです。その時に仏前にお供えするあんこやきなこでくるんだぼたもちがおはぎと同じものであるということをご存じですか？春の彼岸に供えるのが春の花の牡丹になぞらえておはぎというのです。どちらも同じものなのですね。暑いも寒いも彼岸までと言いますがコロナの終息にはならないものですね。皆様絶対に受け入れない様お気をつけ下さい。お祈りしております。

幸田 常一

<お知らせ>

設計管理の佐藤美穂ですが、この度2/28をもって退職することになりました。皆様方には大変お世話になりました。13年間ありがとうございました。

<季節の七十二候>

3月10日～14日頃は七十二候では『桃始笑(ももはじめてわらう)』と言います。桃のつぼみがほころび花が咲き始める頃という意味なのでしょう。昔の人は花が咲くことを“笑う”と表現したのですね。素敵です。桃は淡いピンク、濃いピンク、白もあります。春の訪れを感じさせるかわいらしい桃の花。気持ちがほっと和らぎますね。

<商品紹介>

非接触で安心な水栓操作スイッチがオススメです。小さなお子様や車いすの方にお届けする新しい水栓操作システムです。省スペースの手洗いセットがオススメです。コンパクトでシンプルな形状は様々な場所にマッチします。住宅、施設を問わずに入口や廊下、トイレなど衛生が気になる場所に最適です。



詳細は幸田建設までお気軽に
お問合せ下さい。

選べる2タイプ

センサー式



非接触で安心。

水栓のレバーに触れずに吐水・止水ができるため、感染症を予防することができます。

NEW

EK801-5X-13 ¥70,000 (税込¥77,000)

ワイヤレススイッチセット(非接触型)

- ・センサー部に手をかざすだけで吐水ができます。
- ・湯水混合栓用です。
- ・AC専用



ANY PLUS エニープラス
省スペースの手洗いセット

ANY PLUS は手洗い空間に必要なパーツがセットになった商品です。コンパクトでシンプルな形状は様々な場所にマッチします。組合せも96通りから選択可能です。住宅、施設を問わずに入口や廊下、トイレなど衛生が気になる場所の条件に合わせて設置・ご利用下さい。



タッチ式



手以外で操作できます。

タッチ式はタッチ面が大きくなっているので手以外の肘や足、ひざで操作することができます。



EK800-5X-13 ¥60,000 (税込¥66,000)

ワイヤレススイッチセット(接触型)

- ・スイッチを押すだけで吐水・止水ができます。
- ・ワイヤレスなのでスイッチの設置場所を選ばません。
- ・足踏みによるスイッチ操作が可能。
- ・湯水混合栓用です。
- ・AC専用



信楽焼

日本六古窯のひとつに数えられる長い伝統と文化を持つ信楽焼。時代と共に、形や用途を富めて洗練されたデザインは様々な空間に調和します。

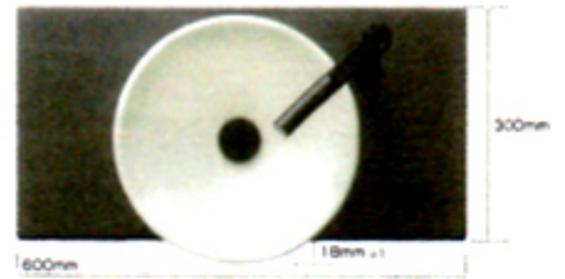


サイズ：[口径]φ305 [高さ]140mm

カウンター

抗菌・抗ウイルス性能を持つメラミンカウンター。傷や汚れにも強く、常に清潔な状態を保てます。

サイズ：[幅]600mm / 750mm / 900mm [奥行]300mm
耐荷重：60kg (30kg / ブラケット1個)



価格帯：¥165,000 ~ ¥300,000
(価格に排水トラップ・止水栓も含まれます。鏡は含まれません。)



*1 試験法: 菌糸法。菌糸培養の品性。有効性及び安全性の検証等に際する留意上の取扱い。特定のウイルスが検出できないため、ウイルスAと記載しています。
*2 ウイルス粒子に負される試験の従法。エンロープがない場合は、エンロープを有するものと比較してアルコール等の消毒剤効果が低く見られます。
*3 PFU (Plaque-forming unit), CFU (Colony-forming unit) の略。アッセイ値が30.000以上から測定したウイルス数は、10倍の値です。

🌸3月🌸 【お花見の新しいかたち】

コロナ禍になり早2年ほど経ちますが、生活や日頃のイベント形式も様変わりしました。なかなか思うように人に会えなかったり、遠方へのお出かけも気軽にはできません。そんな中、お花見の様子も大きく変わりました。桜の名所などは集客があるため、密になりやすく感染リスクが高まります。2021年の春は、公園などでも沿道沿いにガードが張られ、シートなどを広げての飲食や、宴会が禁止されている場所がありました。従来 of 形で楽しむことは困難かもしれませんが、すいている場所で、すいている時間に、なるべくいつも一緒にいる人と、少人数で近場の桜を感染対策しながら楽しむ方法はいくつかあります。自宅でバーチャルでお花見したり、車でドライブがてら桜を楽しむ方も増えてきています。それから、桜の枝を購入して、花瓶に生けてお花見するスタイルも今ならではのかたちですね。何かと制限が多い中でも、日頃、張りつめている気持ちが少しでもほっと安らげる『小さなお花見』があってもいいかもしれませんね。

令和4年3月5日発行

我が家の子供たちがそれぞれ卒業します。

有限会社 幸田建設

楽しい園生活だったかな。どこにも行けない

<発行責任者>幸田久美

中、工夫して遊べるよう知恵をしぼって

〒969-1204

頑張ったよね。いっぱい我慢させたよね。

本宮市糠沢八幡 1-1

と暗中模索しながら、子供たちと一緒に

電話 0243-44-3816

ふん張った園生活でした。 (ほしの)

今回は安積疎水について取り上げたい。安積疎水はご承知の通り、現在本宮地内も農業用水として水田を潤している。あの明治時代の初期に、猪苗代湖の水を引いてくるという大規模の疎水事業がなぜ可能だったのか、その経緯・歴史を紐解いてみたいと思う。

実は明治の同時期に安積疎水の他に、那須疎水、琵琶湖疎水の事業も行われ、日本三大疎水と言われている。いずれも殖産興業を目指した国家プロジェクトとして行われたものである。その三つの内最初に着手されたのが安積疎水である。安積疎水の完成が明治15年、那須疎水（那須野ヶ原の農場開発）の完成が明治18年、琵琶湖疎水（湖水を京都へ）の完成が明治23年（第一疎水）と明治45年（第二疎水）となっている。琵琶湖疎水は都(首都)が東京に移って衰退状況にあった京都を復興しようというものであった。

それでは、安積疎水の歩みを見てみよう。安積疎水の開削事業は猪苗代湖の湖水を引く、国営の農業水利事業として、明治12年に着工され、3年の歳月を費やして明治15年8月に完工した。その事業規模は、幹線水路の延長が52Km、分水路の延長が78Km、トンネルが37ヶ所というものであった。その受益面積は約3千haである。この事業は、猪苗代湖の治水も関わり、奥羽山脈を突き抜けることも関わり、最新技術の導入が求められた。また、最短での工事完了が求められた。結果最新技術の導入が叶い、着工してかこの事業に携わった人は延べ85万人を数え、工事は急ピッチで進められた。つまりこの疎水完成を待っていたのは、国の威信をかけた大事業・安積開拓である。時の明治政府は殖産興業が緊急の課題であり、同時に旧武士（士族）の救済策の具体化が急務であった。そんな中で安積原野が政府の開拓対象として急浮上する。それは何故か。その決定に至るまでの経緯はどうであったのかを次に見てみたい。

安積野の開拓に熱意を示していたのは、明治政府のリーダーで内務卿・大久保利通であった。明治9年のことである。その年明治天皇が東北を巡行されることが決まっており、大久保はその下検分ということで福島と郡山を訪れた。その時の県令（知事）が安場保和で、安場は欧州視察団で大久保と共にした関係にあり、その視察で開拓と産業振興の状況を目の当たりにした。早速自国でも先ずは開拓に掛かるべきと、明治5年大久保は安場を福島県に派遣したのである。その安場の下で安積原野の大槻原開拓を進めていたのが典事（課長）の中條敏恒であった。その中條から大久保は開拓状況について聴取したのであった。当時の大槻原開拓状況はどうであったのか。明治6年に県の勧めにより、旧二本松藩士を入植させると共に、地元商業資本で開成社を結成して参画させ、ため池を造りながら開墾を進め、数年して200ha余の開墾が実現していた。中條は、開墾事業が成果を上げていることを報告し、それと共に開墾の余地はまだまだあるが、安積原野全域に拡大するためには、用水の確保が課題であることを取り上げた。そして用水の水源としては、25Km西の猪苗代湖なら可能であり、猪苗代湖から引水する事業を国費でやってもらいたいと大久保に要請したという。時の政府は、廃藩置県で失業した士族の相次ぐ反乱の鎮圧と困窮する士族の救済に迫られていた。大久保は中條から県の取り組みと要請を聴取して、大いに乗り気になったというのだ。特に当面の士族救済策のヒントを得たのではないか。そして安積野には開墾の余地がまだまだあることも、それには疎水開削の必要性も感じ取ったに違いない。加えて、多数の士族を受け入れにとって宿場町として栄えた商業の5000人の郡山の街があることも幸いと思ったであろう。

そうして安積疎水計画は明治政府の当面する政策課題に適合するものとして受け入れられることになる。そして国営事業として実施に向けて話が進むのだ。その進み具合が、西南戦争の勃発や大久保の非業の死で中断するが、中條の熱意により次の内務卿・伊藤博文に

引き継がれ、オランダ人技師ファンドールの調査結果に基づき、政府は安積疎水の開削を最終的に決定し、明治12年には待ちに待った着工の運びとなる。

ファンドールの調査結果に基づき、最終決定がなされたのはどういうことか。実は猪苗代湖から郡山側の安積原野に水を引くには課題があった。そもそも猪苗代湖の水は、西側の会津盆地に流れている。それを新たに東の安積原野に水を引いたらどうなるか。会津盆地側に流れる水量が減るのではないか、という懸念があった。水争いになったら大変である。そこでファンドールの登場である。安積疎水成功の鍵を握るものとして、会津盆地と安積原野への水の流れを調整する「十六橋水門」の建設が提案されたのである。つまり、この水門の建設により、安積原野に水を流しても会津盆地に流れる水量が減らないよう水量調整をするのが可能だという検証結果なのだ。そのために、実測データに基づき科学的に検討を重ね、建設に当たっては最先端の土木技術と機器が導入されるという我が国にとって初の、革新的なものとなった。十六橋水門は疎水工事のうち最初に着工されたのである。

疎水の着工は明治12年だが、前年の11月頃から九州の旧久留米藩を皮切りに、全国9藩から次々と旧士族とその家族が入植してきた。その数は2000人を数えるまでになった。地域にとっては大変な数である。住まいや食べ物をどのようにしていたかは記録上よくわからない。大変な思いをされたのではないかと推察する。今郡山市開成に開成山大神宮があるが、当時人心融和のために（入植者の心の拠り所として）、伊勢神宮から唯一分霊を許されて祭祀されたものだという。この大神宮で疎水の着工式が行われたのである。

3年の疎水の工事には、延べ85万人の人が従事したというが、どのようにして集めたものか、どこから来てくれたのか。詳細は分からないが、よく集めたものだと思う。それだけ事業完遂に賭けた思いが熱かったのであろう。中でも、優秀な施工技術者の確保が重要である。技術者は鹿児島・大分・東京・横浜・岩手・新潟などから来てもらったことが分かっている。技術面では、水路工事の最大の難関は、奥羽山脈に全長585mのトンネルを掘り、安積原野まで水を一気に流すことであった。そのため、硬い岩石を砕くダイナマイト、地下水を汲み出す蒸気ポンプ、補強のためのセメントなど外国の最新の技術が使われていくのである。このように国家プロジェクトの強みが随所に発揮されていく。

着工から3年、明治15年に疎水開削事業は竣工する。そこで政府の岩倉具視右大臣などが出席して「安積疎水通水式」が盛大に執り行われる。その時、通水を記念して現在の市内葉山公園内に「麓山の飛瀑」がつけられた。今も「麓山の滝」として遺っている。

後の話になるが、明治32年には疎水の落差を発電に生かすため、当時の最高技術を結集して「沼上水力発電所」が建設された。そこから24Kmも遠く離れた郡山に11,000Vの高圧送電を成功させた。この電力は製糸・紡績など郡山の産業を発展させていった。また、明治41年には疎水を人口が増加郡山する水道用水として供給することにもなる。

最後に猪苗代湖からの引水（「東注」と言っていた）については、江戸時代末のころから話題になっていたようだ。明治になると、2年には小林久敬が東注構想を平民生局に進言したという。3年には安積の村々の相楽半右衛門、山岡山三郎、関口桃翁らが実地調査をし、6年には渡辺関哉が測量図を作成し、安場県令に東注の実施方法を進言したという。こうして安場県令の耳に入り、それが中條に伝えられ、やがて後に大久保に伝えられて、安積疎水の実現に繋がったのである。このような先覚者の動きがあったからこそ安積疎水の今日があるといえよう。誠に頭の下がる思いである。今回はこれで終わる。

那須岳、雄国山、安達太良山

1月30日（日）那須岳（茶臼岳）、峰の茶屋跡避難小屋

関東地方は天気良さそうなので那須の茶臼岳に行ってみることにした。7:15 自宅発東北道那須 IC 経由、湯本温泉を過ぎて「↑ロープウェイ山麓駅」の標識に従い除雪された舗装路、途中から圧雪の道を登っていく。大丸園地の先からは通行止めとなっていた。スキーやスノボの客が結構いた。大丸温泉手前の無料駐車場には15台位停まっていたが何とか駐車することができた。

9:25、最初からアイゼンを着けて出発する。4人のグループが先行し助かる。稼働していないロープウェイ山麓駅は寒々としている。雪のない時はここまで来れる峠の茶屋駐車場には乗用車が一台雪に埋もれそうになっていた。放置されたものか？ 登山指導所のところで休憩している2人組がいた。夏場の登山口の「山之神」の石の鳥居が一番上の部分だけが出ていた（写真①）。



写真①

樹林帯を抜けると風当たりが強くて雪が横殴りに飛んでくる。時々飛ばされそうになりながら峰の茶屋跡避難小屋に11:15着。二重のドアになっている冬季入口には「アイゼンのままOK」と表示されていた。ログハウス風の小屋には先行の4人組（若者男性3人、女性1人）がガスボンベ

でお湯を沸かしカップ麺を食べていた。彼らも今回は風が強くて山頂は断念するとのこと。

4人組が出発した後、単独行の若者が小屋に入ってきた。茶臼岳山頂まで行ってきたが、風に何度か飛ばされたとのこと。若者は勇気があるというか無謀というか、自分は無理しないで下山することにした。

11:50 発、往路をたどり、13:10 駐車場着。今回の山行はここまで。

2月19日（土）裏磐梯 雄子沢登山口～雄国山（1271m）周回

自宅発7:45。猪苗代磐梯高原 IC からR459を裏磐梯に向かいゴールドライン入口を過ぎて雄子沢登山口に着いたら、除雪で駐車場が狭くなっていて13台で満杯になっていた。夏場であれば路駐も可能だが、除雪の妨げになる。どこか停められないかいったん引き返したら、両側とも除雪の雪が壁になっていて（写真②）停めるところがなく結局登山口駐車場まで戻ってきた。

さあーて困ったと思い駐車場をよく見ると、入口のところの幅が広がったの



写真②

で、車の進入の邪魔にならないようにスコップで雪を片付けて何とかスペースを確保した。

結局スタートは 9:50 になってしまった。その間に車が 2 台やってきたが、出口の外側に路駐した。登山口は除雪の壁を崩して通れるようになっていた(写真③)。夏道よりも下部の沢沿いにスキーやスノーシューのトレースがあり、ツボ足のまま進む。しばらくして夏道のルートに復する。時折ツボ足が潜るようになったのでスノーシューを着ける。薄日が差してきた(写真④)。



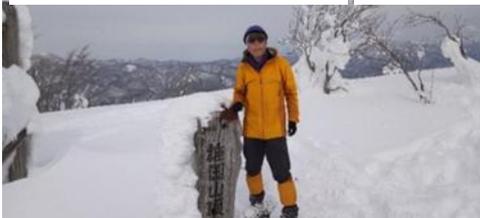
写真③



写真④

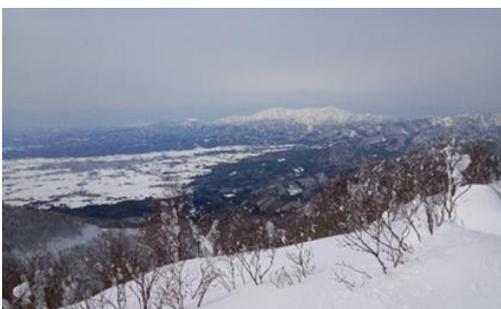
トレースは夏道よりも上部についていて、左手の雄国沼からは少し離れていたの、休憩舎には寄らずに右手の雄国山山頂を目指す。先行の 3 人組のグループが道をよけてくれた。稜線に出たら

下山のグループとすれ違う。単独女子の若者もいた。



写真⑤

12:30 雄国山山頂着。東京都多摩地方の山の会 3 人組の人に写真を撮って貰う(写真⑤)。彼らは山の会の旗を持参していた。翌日は西吾妻山に行くとのこと。西側、喜多方市街地の右手後ろに飯豊山がきれいだ(写真⑥)。振り返ると、雄国沼が雪に覆われている(写真⑦)。左手に猫魔ヶ岳や厩岳山が連なっている。磐梯山は北側左手の櫛ヶ峰は見えているが山頂は雲の中だ(写真⑧)。

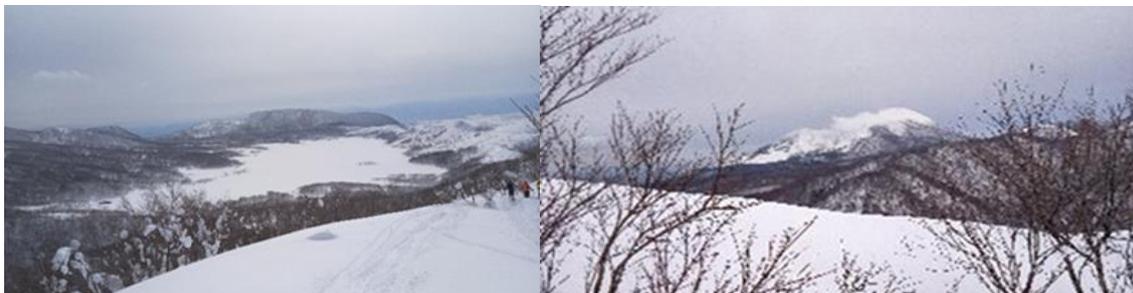


写真⑥

立ったままおにぎりを食べていたら賑やかな二人の女性と静かな一人の男性

の 3 人組が登って来て、飯豊山を背景に女性二人がストックを高く広げて連れ

の男性に写真を撮って貰っていた。「いいではイデオォー」などとはしゃいでいる。なんとなくやり取りの雰囲気には既視感があったので、よく考えたら、1月



写真⑦

写真⑧

10日に磐梯山を相前後して登ったグループではないかと思い、話しかけてみたらその通りだった。ホントに偶然な巡りあわせだった。磐梯山では話したわけではなかったし、下山した駐車場で男性と一言「一日、目一杯遊びましたね」「そーですね」と言葉をかわしただけだったが・・・なんとなく覚えていた。彼女たちの撮った写真の片隅に自分の後ろ姿が映っていた。

彼女らは雄子沢登山口駐車場を自分より早く出て、雄国沼に寄ってから雄国山に登ってきたらしい。彼女らは往路を戻るのではなくて、夏道のないところを駐車場まで周回するという。積雪の時に通れるコースがあることは聞いていて関心があったので自分も後についていくことにした。雄国山頂 13:30 発。しばらくは先行の数人のスキーのトレース（ラビスパ裏磐梯へのルート）を踏んで行ったが途中で右折し踏み跡のないところを男性が先頭になってラッセルしながら進んでいく。新雪で軽いためラッセルというよりスノーシューで踏み散らしての感じか。彼らは3人とも時々携帯を見、声を掛け合いながら進路を決めている。携帯電話の登山GPSアプリYAMAP（ヤマップ）で進路を決めているとのこと。画面上の地図に表示される現在の位置を教えてくれた。

いったん下り再び小山を登って雄国山山頂から1時間くらい歩いて休憩したときに男性が「携帯がない！」と言い出した。結局3人が探しに戻ることにになり、自分はそこで待っていることにした。水筒のお茶はぬるくなっていたがイチゴ大福を食べながらの温かいお茶はおいしかった。3人は30分くらい探して見つからなくて戻ってきた。気の毒だったが雪の中に埋もれているのだろう。自分は携帯をひもで首にぶら下げている。YAMAPで位置確認するために携帯を頻繁に出し入れするときには落下したのだろう。携帯会社に連絡すると落とした位置が分かれると聞いたことがあるがどうだろうか。

下り斜面で女性の一人のスノーシューのベルトがはずれてしまった。新雪の斜面でベルトの操作をするのは大変だ。

16時過ぎ登山口駐車場着、結構な運動になった。最後に男性と名前を言い合

った。Sさん達3人は仙台の人達で、先週は西吾妻山に登り、毎週山に登っているという。「きょうも一日、目一杯遊びましたね、またどこかでお会いしましょう」と言ってお別れした。

2月26日(土) YAMAP 試行、安達太良山(別名乳首山)、奥岳～勢至平～山頂

今年の残雪期(3月中旬～5月初旬)に3つの山に登りたいと思っている。

- ① 福島県南会津町・栃木県境、男鹿岳(三百名山、おじかだけ、おがだけ 1777m)、
- ② 岐阜県、野伏ヶ岳(三百名山、のぶせがたけ 1674m)、
- ③ 石川県・岐阜県・富山県境、笈ヶ岳(二百名山、おいずるがたけ 1841m)

いずれも夏道がなく残雪期に登る山とされている。そのためにはGPSが必要だと思っているが、前回の雄国山山行で仙台の3人組に教えてもらったYAMAPに慣れる必要があると思い、1ヶ月間の無料アプリを入れたので、その試行をすることにし、天気予報で降雪の心配のない26日(土)に安達太良山に行くことにした。

奥岳スキー場8:20発YAMAP「活動を開始」する。結構人が入っていて踏み固められているのでツボ足で行けるところまで行こうと思った。下山してきたくろがね小屋泊りの数グループ20人近くの人達とすれ違ったが、風が強く山頂は断念したとのこと。勢至平で引き返してきた人もいた。

勢至平の分岐の標識が見つからなかったがスノーシューを着けて左側の雪原に入っていく。本来ならばYAMAPで確認すれば良かったが見慣れた景色なので、雪から枝が出ている灌木を避けながら進む。

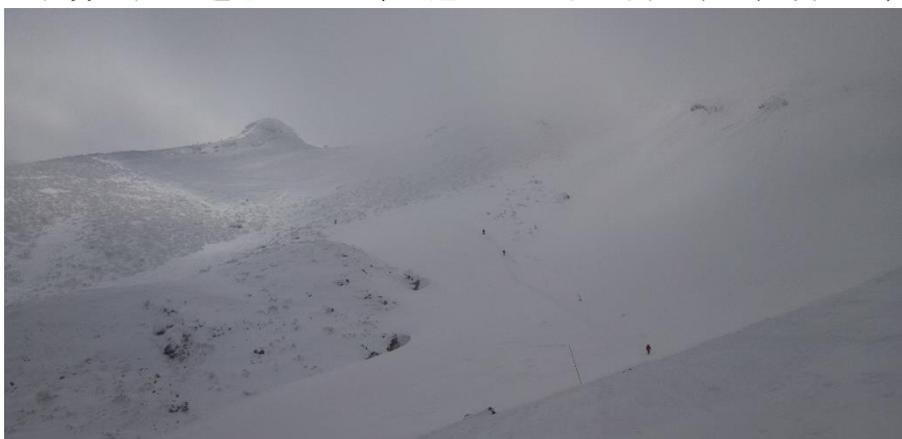
雪は締まっていて歩きやすいが風が強く時折体が飛ばされそうになる。籠山(かごやま 1548m 写真⑨)の右手に出れば良いことが分かっているのでYAMAPを見ないで済ませてしまう。



写真⑨

自分は籠山寄りに進むがスキーの6人組は列を作って自分よりもずっと右側を歩いていく。籠山の右手を越えて峰の辻に至る。標識の頭が見えている。風が少し弱まっている感じがする。スキーの6人組は馬ノ背の稜線に向けて直進する。稜線の風の強さは半端じゃないのと思った。どこに行くのだろうか？

自分は風を避けるため峰の辻から一端左側に下り山頂への直登ルートに行く。



写真⑩

(写真⑩左上の乳首が安達太良山頂、登山者の姿も見える。分かりますか?)

山頂は風が強く、西の磐梯山や北の吾妻連峰は上部が

流れる雲に覆われている。東・北方向の福島方面は晴れているがところどころ雲の流れが邪魔をしている。南の和尚山(1602m 写真⑪)は黒々としている。居合わせた登山者と相互に写真を取り合って山頂から降りる(写真⑫)。風が強く寒くて長居はできない。



写真⑪



写真⑫

今回はくろがね小屋には寄らずに往路と同じ勢至平ルートを下山する。13時半過ぎ峰ノ辻でおにぎりを食べる。くろがね小屋経由の登山者も数グループ見かけた。午前中に勢至平～山頂間を多くの人が登下山したせいで踏み跡がはっきり分かった。午前の登りの時より風も弱まり晴れてきた。振り返り安達太良の山々を見納める(写真⑬)。

携帯のYAMAPで自分の山行の軌跡を見たら、勢至平からの登りで通常のルートからは外れてジグザグ歩きになり無駄が多いことが分かった。YAMAPの使い方に慣れればより効率的な山行ができるかもしれない。電池の容量は出発時の96%から7時間で37%まで落ちていた。長時間の山行の場合YAMAPを使うときは別にバッテリーを持っていく必要がある。

YAMAP 試行山行を無事終える。



写真⑬（左から山頂の乳首、目印の籠山、矢筈ヶ森、右端が鉄山）

令和4年3月 NO105 アンチ・エイジング 山旅遊人